

平成28年度第2回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」
「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：平成28年5月24日（火）午後6時30分～8時00分
会場：墨田区役所 131会議室

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 平成28年度第1回乳幼児ワーキンググループ専門部会の報告について	資料2
(2) 平成28年度第2回評価指標ワーキンググループの報告について	資料3
(3) 平成28年度実施予定のニーズ調査の質問項目について	資料4～6
(4) 墨田区待機児童解消計画（平成28・29年度）について	
(5) すみだタウンミーティングの開催について	資料8
(6) その他	

3 次回開催予定

4 閉会

配布資料

資料1	平成28年度「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」及び「墨田区子ども・子育て会議」委員名簿及び事務局名簿
資料2	「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」実施園及びアドバイザー
資料3	インタビュー調査
資料4	ニーズ調査票【就学前のお子さんの保護者の方用】
資料5	ニーズ調査票【小学生のお子さんの保護者の方用】
資料6	ニーズ調査票【成人前調査用】
資料8	すみだタウンミーティング

出席者(敬称略)

委員

大豆生田 啓友(玉川大学大学院教育学研究科教授)
野原 健治(興望館館長)
長田 朋久(横川さくら保育園長)
西島 由美(にしじま小児科院長)
服部 榮(社会福祉法人雲柱社理事長)
押田 剛(主任児童委員)
森 八一(青少年育成委員会連絡協議会副会長)
小菅 崇行(小菅株式会社代表取締役会長)
佐瀬 一夫(中学校PTA 連合会会長)
新木 真理子(ひまわり保育園施設長)
賀川 祐二(NPO 法人病児保育を作る会代表理事)
貞松 成(株式会社 global bridge 代表取締役)
熱田 美帆(公募)
小林 佳香(公募)
佐藤 摩耶子(公募)
荘司 美幸(公募)
関 舞衣子(公募)
島村 博(菊川小学校長)
松井 隆(寺島中学校長)
青塚 史子(八広保育園長)

< 欠席委員 >

高嶋 景子(田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科教授)
杉浦 浄澄(江東学園幼稚園副園長)
高橋 朋宏(文花子育てひろば施設長)
相澤 しのぶ(立花吾孀の森小学校PTA 会長)
内田 淳(青少年委員協議会委員)
中村 信幸(連合墨田地区協議会議長)
本多 美絵子(両国幼稚園副園長)
木村 律子(公募)
陳 晨(公募)
近藤 ゆき江(八広幼稚園長)

< 傍聴 >

4名

部課長出席者

後藤 隆宏（教育委員会事務局次長）、青木 剛（福祉保健部長）、石井 秀和（子ども・子育て支援担当部長）、北村 淳子（保健衛生担当部長）、浮田 康宏（子育て支援課長）、杉崎 和洋（子ども課長）、高橋 義之（子ども・子育て支援担当副参事）、村田 里美（子育て支援総合センター館長）

事務局出席者（検討チーム含む）

田村、岩佐、柿畑、戸村、酒井、小林、藤井、土井

事務局（株名豊）

渡邊

2 議題

(1) 平成 28 年度第 1 回乳幼児ワーキンググループ専門部会の報告について

委員	<p>それでは、今年度初めての乳幼児ワーキンググループの専門部会の報告をさせていただきます。お手元の資料の資料 2 をご覧ください。</p> <p>先週の月曜日、5 月 16 日に今年度初めての「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」の実施園の会議を開催させていただきました。</p> <p>基本的には昨年と同様なかたちで、4 つの園に協力をしていただき、今年も子ども主体の協同的な学びプロジェクトを実施したいというように考えておりました。今回はお手元の資料でございますように公立保育園からは水神保育園さん、私立保育園からは木ノ下保育園さん、公立幼稚園からは八広幼稚園さん、私立幼稚園からは言問幼稚園さんが手をあげていただきました。</p> <p>この 4 つの園で、今年の協同的な学びプロジェクトを進めていきたいと思っております。それぞれ、昨年アドバイザーとしてかかわっていただいた大学の先生方に、資料 2 のようにそれぞれの担当園を持っていただいて、これから 1 年間協同的な学びの実践を深めていっていただくことになりました。16 日の会議は、初顔合わせということでもまず自己紹介をしまして、その時点では担当アドバイザーの先生が、どなたがどの園をやるかは決まっていなかったのですが、それぞれの園の現在の様子や今後の 5 歳児を中心にした保育の取組等、そして、この子ども主体の協同的な学びのプロジェクトの趣旨、取り組み方法等の確認をしまして、昨年同様、11 月から 12 月前後にかけて公開保育をまず実施させていただいて、2 月か 3 月のあたまくらいに、また区民の皆さんに対する発表会というような報告会というようなものを企画させていただくということで、皆さんのご了承をいただきました。その後、担当の先生、アドバイザーの先生がこのように決まりまして、昨年は少しスタートが遅れておりますので、早速アドバイザーの先生と各園で連絡を取り合って、まずは第 1 回目の訪問を各園にさせていただいて、今後の 1 年間の方針・計画等の対応をしていただいております。</p> <p>16 日の会議は以上です。</p>
	(質問等、特になし)
会長	事務局にはお伝えしていますが、昨年度の墨田区の事業についてだけではないのですが、今、全国で子ども・子育て支援新制度になって、あちこちで自分たちの自治体をどうしてい

	<p>くかということで、これは自治体によっても雲泥の差です。</p> <p>私はある雑誌の特集を組ませていただきまして、そのことで私は墨田区のことを入れさせていただいたのと、今日欠席ですけれども、高嶋さんが特に協同的な学び事業に関しては、園の取組も含めて執筆くださっているということで、この場を借りてお伝えさせていただきます。もし必要があれば、事務局のほうからまたそのような印刷物があってもよいのかもしれませんが、そのようなことだけお伝えいたします。</p> <p>それでは次に進めさせていただきます。</p> <p>(2)の平成28年度第2回評価指標ワーキンググループの報告についてということです。</p>
--	--

(2)平成28年度第2回評価指標ワーキンググループの報告について

事務局	(資料3を説明)
委員	冒頭のインタビュー調査【学童クラブ指導員】となっておりますが、新制度は支援員に変わりましたので、訂正したほうがよいと思います。
会長	<p>詳しくはまた西島先生がいらしてからということですが、他にはなにかありますか。</p> <p>それでは一度進めさせていただこうと思います。</p> <p>(3)の平成28年度実施予定のニーズ調査の質問項目についてということで、これは事務局でよろしいでしょうか。</p>

(3)平成28年度実施予定のニーズ調査の質問項目について

事務局	(資料1、資料4～6を説明)
会長	前回出たご意見を踏まえて修正案を出していただきました。いかがでしょうか。ご意見等お願いします。
委員	今の資料5と資料6の小学生のお子さんの保護者と成人前の調査の項目ですが、資料5の7ページ、それから資料6は4ページになります。同じ質問の問18、問14の項目のことです。非常に見やすくわかりやすく設問を入れていただきましてありがとうございます。非常に私はありがたいと思って、非常によい質問だなと思っています。ただ、この文言なのですが、使い始めた時期ということが、誤解を招くような聞き方かなと思ひまして、持参状況ということも変わった日本語だなと思いながら読んでいますが、持たせた、持ち始めたのが持参状況ですね。使い始めたのは、持たせた時期のことを聞きたいのだろうというように思うのです。ただ単に使い始めたとなると、親の持っているパソコンやスマートフォンを子どもが使い始めたというように誤解をされると、それこそ1歳の子、2歳の子がもういじっているのです。保育園などによく無言の電話がかかってくるのです。そうすると赤ちゃんが親のスマホをいじって電話をかけてしまっているのです。そのような意味でこの使い始めたという文言と持参という文言も日本語的に変えたほうがよいかなという気がしています。
会長	具体的にどうしたらよいかですね。そうすると始めた時期というのは長田先生がおっしゃる意図からすると、本人が持って使い始めた時期というように、何らかの言葉を添えてはどうかという意味合いでよいでしょうか。
委員	それを使い始めた時期とあるので、それを使い始めたということですから、それをという

	<p>のが自分専用の携帯のことを指しているのので、上の問いではわからないことはないのですが、ただこれを正確に捉えるということで、表だけみて丸を付けて誤解を招くようなことがあるともったいないなと思います。</p>
会長	<p>最初に子ども専用の携帯電話と書いてありますよ。これでは駄目ですか。</p>
委員	<p>設問の文章としては、このままでよいと思います。それを使い始めたと書いてあるので、ただ表だけ見ると、使い始めた時期というのを「それを」と書いていないので、この表だけ見てしまうと、使い始めたのは3歳くらいかなと付けてしまうことになり、もったいないかなと思います。</p>
会長	<p>自分で持って使い始めた時期、自分の専用の物で使い始めた時期ということなのですね。持参状況はよいですか。</p>
事務局	<p>事務局からですが、まず表の中の言葉についてですが、皆さんのご意見を踏まえた上で、「持参状況」を「保有状況」というようなかたちで直したらどうかということと、使い始めた時期につきましては、自分専用の機器を使い始めた時期というかたちで少し補足表記にさせていただくと、そのような感じで少し直そうかと考えております。</p> <p>また表中の表現、携帯電話とスマートフォンを分けていますけれども、あくまで通話を主にするものとしての携帯電話という表記、これはPHSを含めてですね、それとスマートフォン、インターネットを主に使うようなものの機器というかたちで、このような趣旨で分けておりますが、なかなかこの辺は社会情勢にかかわってくるかと思えますけれども、現時点ではこのような区分でさせていただいておりますので、そのような認識で理解いただければと思います。</p>
会長	<p>事務局からこのような修正案が出されましたけれども、よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>これも修正分に付け足しなのですが、例えば、いわゆるガラケーを持っていて、今は持ってなくてスマートフォンを持っていますよというパターンがあったとした場合、例えば、保有状況で持っている(持っていた)と、例えば携帯電話は小学校低学年で使っていたけれども、スマートフォンは小学校高学年で使っていたなどというかたちで、機器が段階を追って、自分専用の機器を持っていたけれども、今は持っていないという過去形もありえるのかなと今思ったのですけれども、その辺も持っている(持っていた)という過去形も含めて聞いたらどうかと今思いました。</p>
委員	<p>中学生で持っていない子はたくさんいます。これは全部小学前か小学校ですよ。</p>
事務局	<p>小学生のお子さん向けのほうが小学生で聞いていて、成人前調査のほうは小・中・高と聞いています。</p>
会長	<p>そうですね、入っているののでこれでよいはずですよ。他にありますか。</p>
委員	<p>遅れてきて申し訳ありません。いつから持ち始めたかということ、何時間使っているかということが大事なのではないかとあっさりと考えていたのですが、パソコンなどは家族でみんな共有していたりしますから、自分で自由に使えるIT機器をいつから持っていたかということ、インターネットだけだとLINEはインターネットに入るのか、おそらく入らないと思うのですが。よくわかりませんが、メールはインターネットに入るのかということをよくよく考えると、多分メールなどの時間がとても長いわけでしょう。多分知りたいことは何時間くらいそのような物に向かい合っていて、他のことに使う時間がないかということが知りたいのかなと思っていたのですが、本当はIT機器というとテレビも入ってしまうの</p>

	<p>ですよね。テレビやビデオの視聴も含めて何時間というそのような話にもなってしまうので、いろいろな物を書いたのだけれども、もう分けていつから持ったかという必要がたしかにあるのかなと思います。これのどれかを使い始めたのはいつかなど、何時間使っているか、ということでよいのではないかと思います。</p>
会長	<p>これに何時間使っているか、ということを一日のくらいの時間使っているかをここにに入れてもよいのではないかと、ということですね。</p> <p>おそらく今のLINEの問題をお聞きするならば、多分時間ということが大きいということになると思いますけれどもいかがでしょうか。でも、ここまできたらあまり複雑にしたいということもあります。それを入れるとすれば1行くらいで入れるかどうかの問題ですね。</p>
委員	<p>機器を全部例示と言いますが、括弧して書いて、これのどれかを使い始めたのはいつからかなどというようにまとめてしまえば質問は減るのではないかと思います。</p>
会長	<p>でもそれは、せっかく前回の意見を踏まえてこのようにやったので、これは活かしたいです。これを活かした上でお願いします。</p>
事務局	<p>事務局からですが、使用時間については今言ったLINEなども含めて、インターネットというかたちで今回は取りまとめておりますので、インターネットの使用時間を問16で問いまして、その中の内容として問17でLINEを含めたSNSや調べもの、そのようなものをどのようなものを使っていますかというかたちで今回は整理させていただいておりますので、なかなか厳密に、たしかにおっしゃるとおり区別しにくいところがあるのですが、今回はこのような分類で提案させていただいております。</p>
委員	<p>そのインターネットの中にLINEも含む、メールも含むと書いてくださると、メールはよくわかりませんが、それは書かないと難しいかなと思います。</p>
委員	<p>理解が追いついていないのかも知れないのですが、最初お話にあったのは、資料5の問18の表について話をしていましたよね。子ども専用というキーワードが入ってきて、この表を見ながらその表記の違いや使用時間云々という話の流れなのかなと思って聞いていたのですが、今事務局のほうで回答されたのは、多分資料6の時間については、問いが上に書いてある問16にあるというのは成人前調査のほうの資料の件で多分説明されていると思うのですが、話が少し違っている気がします。</p>
会長	<p>すみません、私も追いついていなくてごめんなさい。ご指摘のとおりだと思います。</p>
事務局	<p>こちらの資料6の成人前については、時間について問いがありますので、たしかに問18の以降には時間についての問いがないので、皆様のご意見を踏まえて時間を入れるかどうかをここで検討いただければと思います。</p>
委員	<p>もし先ほど西島先生がおっしゃったように、表にうまく踏まえるのであれば、資料5のほうの問18の表のところの、例えば保有状況と変えるということですが、保有状況の「持っている」の横などに時間を書き込む欄などをつくるのは難しいですか。基本的にはチェック式でないと駄目ということですか。</p>
事務局	<p>一番簡単な修正方法はそれだと思いますので、もしよろしければ事務局のほうに一任いただいて、案としてまたお示しして、メール等で確認いただければと思います。</p>
会長	<p>そのあたりいかがでしょうか。聞き方が少し違ってきますけれども、聞きたい時間を把握するという意味では両方が把握できるということですね。</p>

	保護者目線で何かありますか。
委員	保護者会の中でも、結構このSNSやスマホを持っているかどうかという問題が保護者のほうでも気になる問題で、そのあとすぐに学校からのアンケートで、スマートフォンを持っているかどうかや、何時間使っているか、家でどのようなルールにしているかなど、そのようなアンケートが配られていたので、結構保護者からの要望と言いますか、学校でもこのような指導と言いますか、声掛けをしてもらいたいなどがあって、関心が高いものだなというようには思っています。
会長	学校としてもそのようなことの調査はなされているというご報告でした。ありがとうございます。 一応、ご意見として時間を入れるほうがよいのではないかと、というご意見のもとで今動いています。ただ、入れ方のテクニックの問題の話をしていきますけれどもいかがでしょうか。
委員	保護者目線と言われたことで思い出したのですが、子どもに時間を聞かないとわからないのではないかと、親に聞いても無駄なのではないかと、ということが1つと、それから後半に小学生のお子さんご本人に答えてください、というアンケートがあるのですが、この部分だけ何か袋に入れて提出するなど、親に見られない工夫などということはされているのでしょうかと、ふと小学生の立場に立って思いました。親に見られたら本音などは書けないなと少し思ったのですが、いかがでしょうか。
会長	学校で行っている調査などは、親がこれくらいだろうということで書いているものですよ。学校などで子どもに聞いている調査などはあるのでしょうか。 先生方の中で何かありますか。ここはどちらにしても親に対する調査だから親が書くしかないのだと思うのですが、一応学校側からも大抵は親が把握するようにというように、一応そのようなご指導がなされていると思います。 よろしいですか、もしその辺りであればそろそろ事務局が、ここにこのように間に入れるということはテクニック上不可能ではないということだったので、その辺りで折り合うという案ではいかがでしょうか。よろしいですか。
事務局	事務局から補足ですが、先ほどのインターネットとSNSの関係について、今回の質問ではインターネットとSNSというのは、インターネットの中にSNSというものが含まれるという概念で、成人前調査の中では聞いておりますけれども、最近の認識ですと、インターネットとSNSというのが別の概念というかたちのほうが、もしかしたらしくりくるということもあるので、そこもあわせて整理させていただければと思いますので、ここは案として作り直させていただきたいと考えております。
委員	そうなのですよ。成人前のほうの資料6の問15のところ、インターネットだけが問17に行くようになっているのですが、メールはインターネットを介したメールのことですよ。携帯のメールという意味でこれは外れているのですか。通話は2番目にきているから、これは携帯のメールのことを言っているのか、難しいですね。 メールとインターネットをやっている人は問17へ行ったほうがよかった。 LINEをやっているとメールという意識はあるのですが、でもあれは正確に言うとメールでもないような気がします。
会長	学生はメールとLINEを言い分けています。
委員	スマホやパソコン、タブレットの使い方は、今一般的にインターネットやメールだけでは

	<p>なくて、例えばお子さんでも自分でYouTubeをみたり、CMを見た方もいらっしゃるかと思うのですけれども、テレビ番組などをダウンロードと言いますか、オンデマンドでパソコンやテレビ、もしくはテレビ自体がもう通信機器と繋いで視聴したりなど、それぞれYouTubeを見ながらダンスを踊ったりなど、もうかなり多岐にわたって使用しているので、使用時間を問われてしまうと、例えばオンデマンドで、タブレットで何か学習番組をみている時間など、本当にきりが無いと思うので、それを設問で聞くことで何が知りたいのかなという、ただメールだけをしている時間を知りたいのか、オンデマンドで何かを視聴している時間を知りたいのか、向かっている時間を知りたいのかは、ではテレビを見ているのも、ブロードバンドで見ているのも一緒と言えば一緒かもしれないですし、目的をもう少し精査した上で何時間何を見ているのかということを少し考えたほうがよいと思います。</p> <p>ただ文章だけを見て、受け取った人がどのくらい使っていますかという、例えばお子さんなどでも今ドラゴンクエストなどとても流行っていますけれども、1日2時間くらいやったのなど、それだけやっている人は普通にそのくらいやっているみたいなので、そのようなゲームなども含めてかなり多種多様に使われていますので、もう少し精査してからやったほうがよいのではないかと個人的に思いました。</p>
会長	<p>どうでしょうか。どこまで精査しましょうか。</p>
事務局	<p>事務局からですが、今のご意見を踏まえて、設問項目はなかなか、例えばインターネットの少し前だとウェブのブラウジングですよね。これをインターネットと表現しているかと思えます。多分それのなごりで残っていると思うのですね。そこも整理しますと、まず、この設問の趣旨としては、お子さんがIT機器全般をどのように、どのくらい使っているのかということがまず聞きたいのかなということと、あとは主にどのようなものでこのIT機器を使っているのかなというところの2点かなと思うので、そのようなところがわかるようなかたちで、もう少しシンプルなかたちで整理できればと思っていますので、今ここでそのようなことを、全般を議論するのはなかなか難しいかと思えますので、ここも改めて事務局に一任いただいて、整理させていただく時間をいただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。今、意見はかなり出たと思いますので、今のことを踏まえて整理いただくということでもよろしいでしょうか。かなりここに関しては時間をかけたかなという気がします。</p> <p>では、この点はよいということで、他の点で何かございますか。</p> <p>資料5の問15に児童館が新しく付け加えられたことの、この項目は大体保護者さんが見ればこうだとわかるような項目ですか。大体よろしいですか。もしそうであれば問題ないと思います。</p>
委員	<p>就学前のお子さんのお子さんの一番始めの認可保育園などいろいろ説明しているページがあるのですが、私の個人的理解では小規模保育所も家庭的保育所もいわゆる認可事業なのではないでしょうか。認可保育園と小規模保育所と書くと、これは国は関係ないからよいかと思ってしまいます。一時預かりもいちいち保育園名まで全部書く必要はないと思うのですが、何の目的でこの紙をつくったかがよくわからなくて、区のやっている事業を選定するためのなのか、アンケートの説明をするためのなのかよくわからなかったことと、認可という言葉がどこまでかかるのかが少しわかりませんでした。</p> <p>それから、利用したサービスの中で、問14ですね。私は前のバージョンを見ているのでペ</p>

	<p>ージは違うかもしれませんが、欄外に で墨田区では病児を預かっていません、病児保育を始めましたけれども、これは今も。新しいものを見ていないのでわからないのですが。就学前のお子さんのこの間もらった物が1バージョン古いと思うのですけれども。</p>
会長	<p>問 14 ですか。</p>
事務局	<p>申し訳ありません。2月から墨東病院で病児保育が始まっておりますので、これは削除させていただきます。</p>
委員	<p>この前の指標会議の時に言ったのですが、問 29 のお父さんがどのように子育てに関わっているかというところで、これはお母さんに聞いた時と、お父さんに聞いた時と答えが違ふと思います。これを指標にするには、例えばご夫婦でお話合ってお答えくださいなどしないと、父親が関わっているかどうかを父親自身が自分はたくさんやっていると思っているのだけれども、パートナーからはやっていないと思われるのではないかなど、そのようなものを指標にするのは結構おかしいのではないかと思います。</p> <p>私たちの世界だと、薬の効果判定などで効いた気がするというものと同じような気がするのですけれども。</p>
会長	<p>問 30 のことを言っていますか。</p>
委員	<p>すみません、前のものなので少しズレているのかもしれません。問 29 になっていたので、対象のお子さんに父親としてどのように関わっていますかということ、母親の答える場合と父親が答える場合では、答えが違ふのではないかと思います。そこを例えば、ご夫婦で話合っなど、と言ったほうがもう少しましなのかなと思いました。母親が答えた場合のパーセンテージと父親が答えたパーセンテージは絶対違ふますよね。違ふものを指標にするのはおかしくないですか。</p>
会長	<p>どうでしょうか。</p>
委員	<p>回答される方は最初の間でどなたですか、と聞いていますよね。そのように聞けば父親か母親かわかるのではないですか。</p>
委員	<p>それを分けて集計するならよいかと思います。</p>
会長	<p>そのようなことですね。分けて集計するのであれば問題ということですね。</p>
委員	<p>問 33 の育児休業取得後の職場への復帰についてお答えくださいというところの3番目で、育児休業中に離職した、とあるのですが、それは可能なのでしょうか。育児休業は普通離職できないと思ったのですが、もし離職したのであれば相当な理由だと思うのですね。理由は聞かないのですか、というもまた長くなってしまうので申し訳ないのですが、育児休業中の離職は通常許されていないと思うのですが、そのようなことはないのですか。</p> <p>私たちは育休を明けて働かないと駄目と言われて、そのようなものだと思っていたのですが、そのような状況はあるのでしょうか。でもそうだとするとかなりな状況なのかなと単純に思いました。そうでもないのですか。</p>
会長	<p>たくさんありそうなら、ひとつひとつ見ていきましょうか。事務局としてこれはどうですか。</p>
事務局	<p>概念的には育児休業中の離職というのも想定できると思いますが、改めて就業規定等含めて確認をさせていただきます。</p> <p>最初の言葉の認可保育所の使い方についてですが、我々も通常の認可保育所と小規模保育所とそのような呼び方で使い分けしているところがこの表の中の表現になっていてわかりづら</p>

	<p>いということもあろうかと思しますので、そこも整理して、正式な表記の中で概念が混ざらないように考えさせていただきたいと思します。</p>
委員	<p>あと、小学生のお子さんの保護者の方ということで、問8ですよね。対象のお子さんは幼稚園や保育園などの定期的な教育・保育事業を利用していましたか、とこれは直した方がよいです。それで、これは多分未就学児と同じ順番に並ぶのではないかと思ったのですが、未就学児のほうには幼稚園の延長保育などが入っているのですよね。入れないのでしょうか。多分同じ選択肢になるのではないかと思します。前の調査から3年経っていますから、このような利用した人が学校に入っているのではないかと勝手に思いましたけれども、選択肢が違っているのは理由があるのですか。</p>
会長	<p>今はわかりませんよね。そうしましたらまた調べていただくということでよろしいでしょうか。まだありますか。</p>
委員	<p>小学生本人に聞く質問に関しては、別に封筒など入れて親に見られないように提出する工夫などをしてみてもいいのでしょうか。やはり知られるか、知られないかによって答えは変わってこないでしょうか、と私はへそが曲がっているものでいつもそう思します。本当の声を聞いたほうがよいのではないかなと思しました。</p> <p>後は言葉遣いですが、成人前調査の問34、大人になっても墨田区に住みたくないと思理由は何ですかという言葉はおかしくないですか。大人になっても墨田区に住みたくないではなくて、大人になったら墨田区に以外に住みたいや、墨田区には住みたくない、これは単純に言葉の問題なのですが、日本語として少し変だなと思しました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。もし何かコメントがあればお願いします。</p>
事務局	<p>まず、小学生の4年生以上の方のご本人がお答えください、というコメントにつきましてですが、ご意見のとおり部分もあろうかと思しますけれども、まずこの質問だけを小学生のお子さんだけに通知するという事はなかなか困難かなと思しますので、回答したものをお子さんが別途封筒に入れて回答するのはなかなか困難な部分もあろうかと思しますし、それが果たして、そのようなかたちでできたのかどうかということも、中々わかり得るものかどうかという疑問もありますので、あと前回はおそらくこのような別途の取り扱いではなくて、まとめて1つの回答というかたちで受けさせていただいておりますので、今回もなかなかそのようなところも踏まえて特に別の封筒というかたちは、取り扱いは難しいのかなと認識しております。</p> <p>あと問34のところですが、確かに今のご指摘のように文言的に違和感があるかと思しますので、ここも改めて文章の表記については検討させていただければと思します。</p>
委員	<p>子どもの面倒を見たことがありますか、という質問が加わったと思うのですが、子どもの面倒というだけだと、とてもざっくりしてわからないので、例えば、ミルクを飲ませた、おむつを替えた、抱っこしたというようなことを入れたほうが答えやすいかなと思しました。これは提案です。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。これは多分前回と同じようにやっているのだと思しますけれども、よりわかりやすくしてはどうかというご提案です。</p>
委員	<p>小学生の問36ですが、これは親が見るとなかなか答えにくい部分がありますね。</p>
委員	<p>別に配布するのではなくて、質問のところだけ紙を別にして、封筒の小さいものを1枚入れて、子どもには書いたらこれに入れて封をしなさいと言えよいいだけではないかと思します。</p>

	した。
会長	その点に関しては新たな提案なので、前回のことに基本は踏襲する、よいアイデアだと思いますし、子どもは答えられると思いますけれども、これはこの枠とは外したほうがよいと思います。今のことに関してはそうかなという気がしますが、よろしいでしょうか。何々などに入れるという案に関しては丁寧だと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	皆様から特にその意見について反対意見など無いようでしたら、今の西島先生の提案のような具体例を入れて表記したいと考えております。
会長	よろしいでしょうか。他、今のことと関連してもかまいません。いかがでしょうか。
委員	これは新しい設問だと思いますが、小学生のお子さんの保護者の方の問 15 の (2) 児童館を地域子育て拠点として充実した施設とするために、あなたが児童館に対して希望することは何ですか、という設問が今回加わったかと思うのですが、これは例として授乳コーナーと子どもと一緒に入れるトイレということが2つ上がっているかと思うのですが、素人目線でみると、この例が2つ上がると、ハード、いわゆる設備のことだと思うので、回答として何か設備を求めるのであればこの例でよいと思うのですが、もっとソフトの面、例えば個別相談会や予約制の育児相談など、そのようなソフト面での何か要望を求めるようであれば、例をハード、ハードではなくて、ハード、ソフトで入れたほうがよいのではないかと思います。もちろんハードのほうを求めているようであれば、これはこのままのほうがよいと思うのですが、ご検討をよろしくお願いいたします。
会長	今の意見に関していかがでしょうか。
事務局	ご意見のところでは異論がなければそのようなかたちで修正していきたいと思います。
委員	就学前のお子さんの、最後の問 47 の 10 番の答えなのですが、末子が定年退職までに成人してほしいからというのは日本語としてはよいのかもしれませんが、定年退職までに末子が成人してほしいからの間違いではないですか。末子が定年退職してしまうことになりませんか。
会長	そうですね。これは西島先生のご提案でよろしいでしょうか。お願いします。そろそろよろしいでしょうか。かなりいろいろな意見がありましたので、修正にもかなり時間を要するかなと思いますので、そうは言っても間違いのないようにしなければいけないのでかなり大変な作業になるかと思いますが、事務局のほうよろしくお願いします。ではここまでよろしいでしょうか。それでは議題の (2)、すでに事務局から説明がありましたので、もし何か先生のほうで補足するようなことがあればお願いします。基本的には資料の 3 のところです。

(2) 平成 28 年度第 2 回評価指標ワーキンググループの報告について(補足)

委員	これを見せていただいて、1つだけ。一番はじめの学童クラブ指導員(4)の墨田区の子育て環境に望むこと、環境と入れなくても墨田区に望むことでもよいのかなということ、その会議で出た意見は、短期的な今すぐやってほしいことと、長期的な何かというように分けてはいかがですかというように出たのですが、そのくらいです。あとは、ここに書いてあるとおりですが、インタビューの前に、前の質問票つくってある程度ということ、多分その辺はおっしゃったと思います。
----	---

	今回の調査は、計画に何かいろいろ、ただN(回答者数)が少ないので、統計処理みたいにしてしまうとミスリードしてしまう可能性があると思いますが、そのようなお話をしました。
会長	どのように整理するのですか。
委員	統計処理をしたいとおっしゃっていたのですが、多分Nイコール10や20なので。
会長	例えばKJ法みたいに、キーワードみたいなものを浮かび上がらせていくなど、そのようなやり方ではないのですか。
委員	でも大体何がもとめられているか、前のものもグラフになっていましたよね。何が一番欲しいのかということも。そのような傾向にはできればと思います。
会長	実際にこのようなことを聞いて、どのようなかたちでこれが出てくるかは、まとめかたによって多分出てくるものは随分違ってくると思いますので、インタビューの調査をどう分析するかという仕方の問題ですね。他はよろしいでしょうか。 よろしければ次に進めさせていただきます。では(1)(2)(3)が終わったということで、(4)にいきたいと思います。 墨田区待機児童解消計画(平成28・29年度)についてということで事務局からお願いします。

(4) 墨田区待機児童解消計画(平成28・29年度)について

事務局	(墨田区待機児童解消計画について説明)
会長	いかがでしょうか。
委員	素朴な質問ですが、申込者数は、入所児童数と待機児童数を合わせた数なのでしょうか。
事務局	この申込者の中には、保育の必要のない方というのが含まれていらっしゃると思いますので、そのような方は待機児童数に含まれていないというかたちでございます。
委員	保育の必要のない方が申し込んでいるというのは、どのようなことでしょうか。
事務局	例えばご夫婦どちらかが専業主婦(夫)というかたちで、ご家庭では保育ができる方、そのような方が対象外となっているというように考えています。
委員	幼稚園という意味ですか。
事務局	そうですね。保育ではなく幼稚園に入れる方などです。
委員	保育園整備率53パーセントを目標とするとなっておりますが、この53パーセントの算出根拠を知りたいのが1点と、あと、これはもう済んだ話なのかもしれませんが、28、29年でそれぞれ保育園や保育室の整備となっておりますが、幼稚園のこども園への移行などについては、その後、両国のあそこ以外は動いていないという認識でよろしいのでしょうか。
事務局	まず53パーセントの根拠でございますが、こちらは平成25年度、26年3月にやりましたニーズ調査の中で、保育所、それと認定こども園を現在利用しているか、いないかに関わらず、使いたい方という親御さんの率が合わせて53パーセントでございましたので、保育が必要な人の潜在的ニーズを含んで53パーセントと考えているところでございます。
事務局	認定こども園につきましては、今年の4月から1園保育園から転換いたしまして、合計2園となっております。私立の保育園、幼稚園につきましては、それぞれ経営理念、保育理念等ありますので、区のほうからああしてください、こうしてくださいという話ではありませ

	<p>るので、私立の保育園、幼稚園の判断の中でこども園化ということであればやっていくというところでございます。</p> <p>区立に関しましては、来年の4月を目標に2園、幼保連携型こども園にしていく予定でございます。</p>
委員	<p>1点だけ、今のご説明で私立保育園の名誉を守るために少しお話をしておきたいのですが、実際に認定こども園になるためには、園庭を持っていなければいけないという園庭要件があって、墨田区内の私立保育園では、たしか3園か4園だけがその基準に見合う園庭を持っている保育園で、残りの保育園はその基準に見合う園庭がないので、なりたくてもなれないというそのような壁があって、私立保育園のままやらざるを得ないところが多いというのが現状でございます。</p> <p>別の話なのですが、29年度の認可保育所の整備5園のある程度のもう来年の話ですので、目途というのは立っていてこの計画が出ているのでしょうか、ということがとても心配になるのですが、それともう1点、実はこれ、ハード面で一生懸命絵を描いていますが、人材確保は非常に難しいのはもうご承知の事実だと思いますので、区としてこの保育士確保に関する計画などを一緒にここに盛り込まないと、少し計画としては片手落ちなのではないかという気がしているのですが、それについて何らかの見解等ございますか。</p>
事務局	<p>まず1点目の29年度500の現在の想定でございますが、確かに今何件か実際に公募選定中のものが1件ございますし、今後公募していただけるというようなお話の物件もございませぬが、ただそれだけでは500に足りませぬので、(3)にあげているような促進策を今からもって、なんとか500確保したいという、そのような思いの計画でございます。</p> <p>それと、あと、ご指摘の保育士さんの就労支援等の体制の確保のためのお手伝いというところなのですが、今回、この計画につきましては、まず量についてというところに入れさせていただいておりますので、今回、そのようなことが入っていないのですが、ただ先生のご指摘ありましたことというのは、今事業計画にも入ってございませぬし、当然のことながら区としてどんどん対応していかなければならないこと、それが前提にないとこのような確保策というとなり立たないというような認識でございますので、別の計画になっておりますが、そのような考え方を今のところ持っております。</p> <p>この計画の中に、そのような文言を追加できるかどうかにつきましては、これから計画精査調整する中でしっかりと検討させていただきたいと思っております。</p>
会長	<p>他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。人口増の中でこの待機児童の問題がこれほど大きい中で、どのように計画を立てられるかということがとても大きな問題だと思いますので、どうぞ皆さんの目でもこれからご意見いただきながらというように思います。</p> <p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>待機児童の解消する計画を立てるということで、この資料は出ていると思うのですが、解消するために何をやるかということをも多分これから計画されると思うのですが、いろいろな不安要素も含めて総合的に考えていただきたいなというように思います。例えば、待機児童はここに数字として134と出ていますけれども、この裏側にはたくさんの方が本当はいるのだとか、本当は2歳から、3歳から入れたいのだけれども、0歳から入れないといけなかった保護者がいるとか、そのようないろいろな不安要素も含めてトータルで考えていただきたいと思っております。</p>

事務局	ご指摘の通りでございます。いろいろな要素、子育て支援策もこの保育所施設の整備だけではなくて、さまざまなソフト面も含めてやっていかなければならないというのは重々承知してございますが、当然のことながらこの計画、つくったと言って今度数の面だけを前に出してやるのではなくて、よりよい子育て環境ということをつくっていく、それを使命としてやっていきたいと思っておりますので、ぜひ今後のそのようなご意見を頂戴できればと思います。よろしく申し上げます。
会長	他はよろしいでしょうか。ではここまでとさせていただきます。 では次です。(5)すみだタウンミーティングの開催について、事務局からお願いします。

(5)すみだタウンミーティングの開催について

事務局	(資料8説明)
	(質問等、特になし)

(6)その他

事務局	本日、会議終了後に学齢ワーキンググループについてご連絡いたします。 このあと、この会議終了後、学齢ワーキンググループを開催いたしますので、このことについても何かあれば、野原先生のほうから一言いただければと思います。
委員	ワーキングにつきましては、今後の考え方についての学齢関係者との話し合いを持つということと、それからあとは放課後子ども教室の取組は、はじまっているので、その結果を発表するというのが今回の会議です。それから、次回の規約等について決定するというようなことを考えています。
会長	それでは部会の方はどうぞお残りいただきますようお願い申し上げます。 他に議題はございますか。何か委員の皆様からもご提案等ございませんでしょうか。
委員	皆さんご存知の方も多いかと思いますが、6月11日と12日、東京都墨田区の東駒形にあります日本玩具協会主催の東京おもちゃショーが開催されます。入場は無料で、場所が東京ビックサイトです。 今のお子さんたちがどんなものが好きなのか、毎年何万人もお子さんがおみえになって、入場が1時間待ちや2時間待ちなど、もちろん墨田区も毎年出店されておりますので、あとおもちゃメーカーなどもあり、大変盛り上がるショーですので、もしお時間がありましたらぜひ足を運ばれますようよろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございます。他いかがでしょうか。 この2つの資料についてはこの中ではなくて、このあと説明されるのですか。
委員	お手元の地域住民の心と活動を繋ぐプラットフォームと書いてある第3次墨田区の地域福祉計画というものがあります。この後期計画の策定をしました。 はじめに少し見ていただきますと、山本区長のご挨拶があります。3行目のところにガバナンスという考え方、これは小淵政権のときに出された考え方です。それを山崎区長が基本方針、市制の中の基本方針の中に入れた。その中で、福祉分野におけるガバナンスという、いわゆる民、官の協力という要請と、地域住民の協力というものを実現したものが地域福祉計

	<p>画というものになるというようにお考えになるとよいかなというように思います。</p> <p>その次に書いてありますが、これを読んでいただきますと、地域福祉計画がどのように策定されて、どのようなポイントになったのか、そしてプラットフォームという聞きなれない英語ですね。どのような意味なのかということが書かれておりますので、どうぞご覧いただければと思います。この子ども・子育て会議のほうとの関連でいきますと、子育て支援ネットワークを検討しようというように乳幼児部会も考えられておられますが、このことは直接地域福祉計画に繋がる分野でございます。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。皆様もお目通しいただければ幸いです。ありがとうございました。他はよろしいでしょうか。</p> <p>それでは議題はここまでとさせていただきます。</p> <p>次回開催予定ですけれども、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>(次回開催予定について)</p>
会長	<p>またご連絡いただけるということでございます。</p> <p>それではここまでで閉会とさせていただきます。</p> <p>学齢部会のほうに関してはこのあともございますけれども、どうぞよろしく申し上げます。全体としては以上とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>

次回開催予定

日時：調整中につき後日連絡

以上